

〔目的〕 昨年について胸部形状を分類した。対象は成人女子（青年・中年・老年各50名）150名と青年女子100名の2グループで、これについて大きさを除いた成長完成期の「胸部形状の個体差」と「経年変化」を調べ、衣服製作上の適合性を検討した。

〔方法〕 胸部立体形状の数値化は、平面製図によって試着し適合性を確かめた胸部密着原型の計測値36項目と、その平面図にあらわれた前・後身頃のダーツ量及び計測値からの指数値8項目である。その他胸部の前・後・側面写真（青年・老年のみ）を参考とした。大きさを除いた胸部の立体を表現すると考えた指数値と前後ダーツ量をあわせ10項目を用いてクラスター分析を行い、各クラスター別の形状特性を計測値・指数値・ダーツ量・写真によって調べ、小数個の形状特性値に要約するため、主成分分析を行った。

〔結果〕 各クラスターの計測値についてみると、胸部形状の主要計測項目である胸囲・背丈をはじめ身長・胸囲など多くの項目に、様々な大きさの対象が含まれた形状別グループが出現した。まず姿勢を表す反身体・屈身体に大きく2分類され、更に胸囲と胸囲との関係を表すくびれ型・ずん胸型、次に背部と胸部との関係を表す例えば平背はど胸型・ねこ背胸部偏平型などに分類された。これらの形状とパターン上の操作を考えあわせると4クラスターに分類することが実際的であると思われる。青年女子及び成人女子について各々4分類された胸部形状の特徴について、指数値の範囲、年齢層別出現率、ダーツ量の相違、モリソンの関係偏差折線による総合形状の比較、写真による側面シルエットの特徴などを報告する。